

セブンリースバックで再生支援 金融機関と連携拡大へ

【大阪】不動産コンサルティングのセブンは、中小零細企業の再生支援のため、リースバック機能を活用した独自のサービスモデルを確立。地域金融機関を中心に連携を拡大している。

事業者はオフバランス化することで資産を圧縮できる。同社は2011年に設立、4年間で約20件の実績がある。

特徴は、再生途上に

 ◆リースバック 事業用不動産の売却を引き受けた後、不動産を手放した事業者はその不動産を賃貸するサービス。

ある事業者が、買い戻せる時まで賃貸を継続する点にある。目標は、不動産の転売による収益ではなく、事業者の再生にある。そのため必要に応じて資本参加もする。

さらに、販路拡大の

営業支援や記帳代行の会計支援なども展開。認定経営革新など、支援機関として経営改善計画の策定も含め、幅広い支援に取り組む。

同社は、中小零細企業のリースバック需要を見込み、資本金を1億円に増資し、不動産特定共同事業に申請中。リースバックで引き受けた不動産を流動化し、出資を募るとともに、賃料配当を投資家に還元する狙い。